

開講日	2018年春期 木曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階 講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育学 特任教授 赤津裕康		
科目概要および期待される成果	【概要】先回の国勢調査で人口減少が現実のものとして明示されました。巷では2025年問題として取り沙汰されているが、これからは高齢者の時代となるとともに、多死時代でもあり、人口減少の時代にも突入します。老化・加齢研究はまだ未解明の問題が山積しています。高齢者医療とその周辺環境、社会構造の変化にも対応すべく、学び直し講座を構成しました。現状の医療・福祉・介護現場から、また研究の先端領域からの講師をお招きします。【期待される成果】老年医療、老年医学全般的知識の他、現場での現状、今後の社会構造の変化、老化・認知症などにおける最新の国内外の動向、研究の成果など、幅広く知識習得ができ、今後の超高齢社会に対応できる医療人としての幅広い知見を身に着ける事が期待できます。※本科目は大学院講義となります。		
目標とする資格	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネージャー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士、心理士、保健医療行政職		

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1&D-1	1	イントロダクション: 地域・在宅医療と老年医学の関係性と研究へのアプローチ	本講座は大学院の正規講座と「学び直し」講座を試み的に合体させた形態をとります。講義は基本的に大学院講義に準ずることになりますが、受講者の属性は多様になることが予想されるため初回は15回の講義の俯瞰、現在進行中の超高齢社会を概観いたします。その後高齢社会に対応する臨床医学研究のデザインと実践、研究の質を高めるアプローチの講義をいただき、超高齢社会における臨床研究について考えます。	4月12日	特任教授 赤津裕康 名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育学 助教 間辺利江 帝京大学医学部 衛生学公衆衛生学講座
L-2	2	診療ガイドラインと医療情報	主傷病の他、高齢者総合評価、老年症候群などの評価から+プロブレムリストを挙げ、診療ガイドラインに従い、ケアチームにおいて共有する流れを、30年度診療報酬改定、最近の電子カルテ、クリニカルパス、地域連携の話題を含めて解説いただく。	4月19日	講師 大西丈二 名古屋大学医学部附属病院 老年内科
L-3	3	糖尿病患者の認知機能障害	糖尿病は、全身性の代謝疾患であり、様々な合併症を引き起こす。高齢糖尿病患者においては、認知機能障害のリスクが高く、認知症の発症リスクも高いことが赤かになってきた。その機序や影響について概説いただく。	4月26日	准教授 梅垣宏行 名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学老年科学
L-4	4	終末期の在宅医療を考える	病院における緩和ケアノウハウをいかに在宅で実践できるかが私の課題であり、超高齢社会の中で在宅医療の質の向上につながるものと考えている。病院と在宅の両視点の経験と2018年同時改定を踏まえ、在宅医療のチェックポイントを考えたい。	5月10日	院長 家田秀明 みずほ在宅支援クリニック
L-5	5	認知症医療が目指すもの: 久山町認知症研究からの考察	福岡県久山町では1985年から精度の高い認知症の疫学調査が進行中である。超高齢社会を迎えたわが国では、認知症患者の急増が大きな医療・社会問題となっているが、何が原因で認知症患者が急増したのか、その要因を久山町認知症研究のデータから考察する。また、認知症のリスク軽減のみならず、その社会的負担の軽減に必要なことを久山町研究で明らかにしたことから学んでいただく。	5月17日	助教 小原知之 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学/環境医学
L-6	6	在宅医療、高齢者医療における在宅栄養管理の重要性	高齢者医療における栄養管理の重要性は認識されており、病院では栄養サポートチームが定着してきている。一方、地域、在宅においては管理栄養士の介入はまだ手つかずの状況に近い。そこで、在宅栄養管理を広げるための取り組みなどを紹介いただく。	5月24日	教授 井上啓子 至学館大学 健康科学部栄養科学科
L-7	7	高齢化社会と歯科医療	社会の高齢化に伴って歯科医療が変遷しており、日本歯科医師会による「8020運動」も「オーラルフレイル」という新たな考え方を加えた健康長寿へのサポートへと変化している。今回はその概略をお話しいただく。	5月31日	教授 渋谷恭之 名古屋市立大学大学院医学研究科 口腔外科学
L-8	8	基礎老化研究からみた高齢者の免疫と栄養	近年の基礎老化研究の発展は著しいものがあり、老化のしくみを分子・細胞レベルで解析し、そこから得られた知見を組織あるいは個体の老化を制御することで、老年疾患の重篤化の回避、あるいは予防を目指している本講義では、老化を加齢変化の中で見られる様々な疾患のリスクファクターと捉え、その原因となる生体機能の低下、恒常性の破綻のメカニズムをについて加齢に伴う免疫機能の変化と栄養との関係に注目してわかりやすくお話しいただく。	6月7日	副所長 丸山光生 国立研究開発法人長寿医療研究センター 研究所
L-9	9	在宅医療における言語聴覚士の役割	言語聴覚士は言語障害、聴覚障害、摂食嚥下障害のリハビリテーション専門職です。「コミュニケーション」と「食べる」を地域で支援をしていく在宅医療での多職種連携の要となる。言語聴覚士のこれまでとこれからについて超高齢社会での役割の現状と今後の可能性、取り組みの方向性についてお話しいただく。	6月14日	理事 村瀬文康 愛知県言語聴覚士会 地域リハビリテーション委員会
L-10	10	遺伝子と認知症の関係: ゲノム医学への展望	遺伝子解析の新しい技術により、認知症の発症に遺伝子の変化が深く関与していることがわかってきました。本講義では、最近の遺伝子研究の進歩と、認知症診療に及ぼす影響についてお話しいただく。	6月21日	教授 池内健 新潟大学 脳研究所遺伝子機能解析学
L-11	11	認知症の脳内病変の可視化	高齢化に伴い認知機能は全般的に低下するが、認知症では日常生活を脅かす認知機能障害として顕在化する。脳内変化を可視化することで客観的に評価できる。その画像化と知見について講義いただく。	6月28日	教授 尾内康臣 浜松医科大学 生体機能イメージング研究室
L-12	12	オールジャパンブレインバンクネットワーク - 認知症と生きる	認知症診療では患者に最後まで寄り添い、本人及び介護者の生活の質を高める努力をしている。死亡時病理解剖により確定診断を下すことで最後の貢献をし、リソースを次世代のため蓄積することを、オールジャパンで推進している。その現状をお話しいただく。	7月5日	部長 村山繁雄 東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク研究部/神経内科
L-13	13	病理解剖から見た高齢者疾患の特徴	高齢者で頻度の高い疾患、脳血管障害、虚血性心筋障害、閉塞性肺疾患、骨折、前立腺肥大などの疾患について病理解剖から見た所見を画像・写真を用いて概説し、これらの疾患の予防のために大切なことを考える基礎資料を提供いただき、また、現在の医療における病理解剖の重要性についても触れお話しいただく。	7月12日	所長 橋詰良夫 福祉村病院神経病理研究所 愛知医大加齢医学研究所
L-14	14	健康長寿の鍵はフレイル、サルコペニアの予防	高齢者、特に75歳以上の高齢者の診療にあたっては、疾患の管理に加えて、様々な老年症候群への対応が必要となる。フレイル、サルコペニアは老年症候群の中で重要な病態であるにもかかわらず、自覚症状に乏しく、認知度が低いために診断、治療が適切になされないことがきわめて多く問題となっている。本講義においては超高齢社会においては健康寿命延伸の鍵となるフレイル、サルコペニアの意義、診断方法、治療法を解説いただく。	7月19日	センター長 荒井秀典 国立研究開発法人長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
L-15	15	少子高齢化と日本の社会保障	人口減少がすすむ超高齢社会における日本の社会保障の現状と課題について、とくに医療保険財政への影響を中心にお話しいただく。	7月26日	講師 和久津尚彦 名古屋市立大学大学院経済学研究科